

平成30年度

# 小・中学生フォーラム in 牛込第一中学校



新宿区では、毎年、小・中学生と区長が意見を交換する「小・中学生フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、子どもたちの意見を区の施策の参考にするとともに、子ども自身が新宿のまちに関心と愛着を持ち、区政に積極的に参加することを目的とするものです。

7月4日（水）、牛込第一中学校（北山伏町4-1、校長：小須田秀実）の2年A組・B組の計65名が、「障害者とともに生きる社会をつくるために」をテーマに、吉住健一区長と意見交換をしました。

上記のテーマのもと、生徒たちは事前学習を踏まえ、自分の身近に障害がある人がいたら何ができるのか、障害者とともに生きる社会をつくるために自分たちはどんなことができるのか、という2点について班ごとに話し合い、発表しました。その中で「その人の障害について理解できるよう努める」「特別支援学級との交流を行う」「パラリンピックの競技を体育の授業で行う」など理解の必要性や「気持ちを考えながら話す」「差別しない」「手助けをする」などの配慮が必要だという意見、「段差をなくす」「点字の案内やブロックを増やす」「会社は障害のある人を受け入れる」など具体的なバリアフリー化や環境の整備に関する意見も出ました。

区長からは、「耳が不自由な人など、一見してわからない障害のある人もたくさんいる。まずは、想像力を働かせ、相手を知り理解することが大切。そのため、パラリンピック競技や障害を体験できるイベントも区で実施しているので参加してほしい。障害のある人の安心安全に関わることについて積極的に改善していくことが必要。今日、みんなが発表してくれたことはこれから社会全体に訴えていけないといけないし、こうして考えて発表してくれることが、心のバリアフリーにもつながっていく」と話がありました。

生徒たちにとって、障害のある人を含めみんなが暮らしやすくなるために自分たちに何ができるのかを真剣に話し合う機会にすることができ、有意義なフォーラムとなりました。

